



九州地域環境・リサイクル産業交流プラザ NO ECOLOGY.NO BUSINESS

K-RIP情報

KYUSHU RECYCLE AND
ENVIRONMENTAL INDUSTRY PLAZA

vol.1 #2010

(財)九州産業技術センター

九州地域環境・リサイクル産業交流プラザ (K-RIP)

〒812-0013 福岡市博多区博多駅東2丁目13-24

TEL 092-474-0042 FAX 092-472-6609

URL <http://www.k-rip.gr.jp>

九州地域環境・リサイクル産業交流プラザ (K-RIP)

「平成22年度 K-RIP 総会」開催



平成22年6月16日、ハイアット・リージェンシー福岡におきまして、会員企業118社出席のもと、平成22年度の九州地域環境・リサイクル産業交流プラザ (K-RIP) 総会が開催されました。

冒頭、麻生会長の挨拶および K-RIP 顧問の橘高公久九州経済産業局長、花嶋正孝(財)福岡県環境保全公社リサイクル総合研究センター長の来賓挨拶のあと、議長（環境テクノス(株)代表取締役鶴田暁）を選出し、5議案について審議し、すべて異議なく承認されました。

基調講演では、京都造形芸術大学教授 竹村真一先生をお招きして、「地球の目線」という演題でご講演いただき、大変興味深いお話を伺うことができました。

- 第1号議案 平成21年度事業報告について
- 第2号議案 平成21年度収支決算報告について
- 第3号議案 平成22年度事業計画（案）について
- 第4号議案 平成22年度収支予算（案）について
- 第5号議案 役員の改正（案）について

■会長挨拶

麻生 泰 氏 【K-RIP 会長、株式会社麻生代表取締役社長】



只今ご紹介いただきました、九州地域環境・リサイクル産業交流プラザ（K-RIP）の会長をしております麻生でございます。本日は、皆様お忙しい中、平成 22 年度 K-RIP 総会にご出席を賜り、厚く御礼申し上げます。

K-RIP は昨年、設立 10 周年の節目の年を迎えまして、本年は新たな 10 年に向けての最初の年であります。設立からの 10 年間で K-RIP を取り巻く環境は、3R を始めとした資源循環型社会の構築から低炭素社会の実現へと高まりをみせ、今や全産業、全企業が環境問題を自分の問題として取り上げていかなければならぬ時代に突入しております。

つまり、環境ビジネスを志向している K-RIP にとっては、確実にフォローの風が吹いていると言える訳で、今後は、こうした機運をしっかりととらえて、如何にしてビジネスにつなげていくかということが今後の K-RIP に求められているのではないかと思っております。

私も、本年 1 月の「中国遼寧省との環境ビジネスミッション」に参加し、K-RIP と大連市が結んでいる MOU に基づく「第 1 回産業交流会議」に出席いたしました。

交流会議においては、K-RIP 会員企業の中国における事業展開支援に係る調印や協議が行われ大きな（一定の）成果を上げているところですが、今後もこのような会員企業の海外進出支援がアジア各地域で展開されるように期待しているところでございます。

先ほど、本年は新たな 10 年の最初の年と申し上げましたが、K-RIP にとりまして今年は、まさに新たな出発の年と言えると思います。

まず、昨年まで毎年いただいていた国からの補助金がなくなり、K-RIP の事業は国からの委託を受けて実施する事業という形に変わったということです。これまで以上に、その成果が期待されることになるのではないかと思います。

また、クラスターマネージャーについて、昨年度までのお二人が辞められ、新しい方々にコーディネーターとしてご活躍いただくことになっております。

それから、もうひとつご報告ですが、K-RIP 会員企業のアジア展開の支援強化を図るため、本年度北九州市に創設されました「アジア低炭素化センター」との相互連携に関する MOU を先だっての 6 月 4 日に締結したところでございます。

本日、ご審議いただきます 22 年度事業計画におきましては、国内の環境ビジネスの具体的な案件の創出に向けての「ネットワーク強化事業」と、環境エネルギー産業の「アジア展開支援事業」の 2 本立てで計画しております。

また、ジェトロの海外交流事業予算も確保しており、これまで以上に公害防止・省エネルギー技術の「アジア展開」に重点を置いた事業計画となっております。特に、経済発展が著しい中国においては、エネルギー消費が急拡大し、環境汚染も深刻の度合いを増しており、今まさに、私どもの問題として真剣に受け止め、環境ビジネスの国際展開と同時にアジアへの貢献を果たして行くことが求められております。

本日は、こうした環境問題に造詣が深いだけでなく、グローバルな環境問題への新たな視点を提示して活動しておられる京都造形芸術大学の竹村真一教授より、「地球の目線」と題してのご講演を賜る予定となっており、世界の動向と合わせて具体的な興味深いお話を伺えるものと楽しみにしております。

最後になりましたが、K-RIP の活動に対する皆様方の日頃のご協力に感謝申し上げるとともに、今後も K-RIP の発展へのご支援をお願い申し上げて、私の挨拶とさせていただきます。

■基調講演

テーマ 「地球の目線」

講演者 竹村 真一 氏 【京都造形芸術大学教授】



地球を宇宙の目線から見ると、宇宙の中での地球のありかた、水と緑の調和の取れた好都合な真実の上に、我々の生活が成り立っていることが見えてくる。

私達は、地球環境に大きな影響を与えることができる世代である。地球の進化の中で今地球環境がどうなっているのか、地球の未来をモニタリングし、地球環境を修復して行かなければならぬ存在である。

しかし、我々人間は膨大な太陽エネルギーが地球に与えられているのに利用出来ずにいるという未熟さによって、地球環境を破壊しているという事実がある。

何億年も前に生物が蓄積してきた石炭や石油を掘り出し、エネルギーとして消費し、環境のバランスを崩している。これは技術が進歩しているのではなく、技術が未熟すぎた結果である。

日本は今、石油の輸入に年間 24 兆円使っている。これは日本の主要な工業製品の輸出総額に匹敵すると言われ石油依存から脱するシナリオが未だ描かれていないのが現状である。一方、EU 諸国、特にドイツ、デンマークでは電力需要の 20% を自然エネルギーでまかない、エネルギーがタダになる時代へと着実に移行しつつある。

今後日本は、太陽エネルギーを大いに活用出来る 21 世紀型技術、ソーラーエナジーシステム等の開発を行い、世界をシェアに入れた新しい地球をデザインして行くべきである。

そして、その新しいデザインをビジネスとして、また、社会へのメッセージとして発信していくことが重要である。

九州地域環境・リサイクル産業交流プラザ（K-RIP）役員名簿

平成 22 年 6 月 16 日現在

会長	(株)麻生	代表取締役社長	麻生 泰（留任）
副会長	旭化成(株)延岡支社 環境テクノス(株) 九州電力(株) 西部ガス(株) 新日本製鐵(株) (株)ワイビーエム	常務執行役員延岡支社長 代表取締役 取締役常務執行役員立地本部長 専務取締役 執行役員八幡製鐵所長 代表取締役会長	亀井 啓次（新任） 鶴田 曜（留任） 梶原 正博（新任） 鬼山 愛邦（留任） 明賀 孝仁（留任） 吉田 哲雄（留任）
理事	アクトビーリサイクリング(株) 九電産業(株) (株)黒田工業 (株)サニックス 山九(株)九州エリア 太平洋セメント(株)九州支店 (独)中小企業基盤整備機構九州支部 電源開発(株) TOTO(株) 西日本技術開発(株) 日本浄水管理(株) (株)PAL構造 (株)フクユ一緑地 (株)三井ハイテック 三井物産(株) (株)安川電機 (社)日本鉄リサイクル工業会九州支部 (財)九州産業技術センター 北九州市環境局 大牟田市 水俣市 九州工業大学 大分大学	代表取締役社長 理事環境部長 取締役会長 代表取締役 執行役員エリア長 支店長 支部長 九州支社長 CSR推進部長 執行役員土木本部統括部長 専務取締役 代表取締役 代表取締役会長 取締役管理本部長 常務執行役員九州支社長 取締役インバータ事業部長 支部長 専務理事 環境モデル都市推進室長 産業経済部長 産業建設部長 学長 学長	渡邊 吉博（新任） 今泉 幸男（留任） 黒田 實（留任） 宗政 伸一（留任） 北川 恭一（留任） 喜多 康（留任） 栗屋 幸夫（留任） 青木 信也（新任） 山本 忠明（留任） 木寺佐和記（留任） 中村 義博（留任） 菅 洋一（留任） 栗山 昌高（留任） 辻本 圭一（留任） 瀬戸山貴則（新任） 小笠原 浩（留任） 柴田 茂利（新任） 前田 昌三（新任） 小林 一彦（新任） 村上 義弘（留任） 田上 和俊（留任） 松永 守央（新任） 羽野 忠（留任）
監事	(株)西日本シティ銀行 (社)九州経済連合会	執行役員公務金融法人部長 理事環境部長	池本 裕之（留任） 国政 淳一（留任）
顧問	(財)福岡県環境保全公社 リサイクル総合研究センター 九州経済産業局	センター長 局長	花嶋 正孝 橘高 公久

K-RIP プロジェクト

K-RIP プロジェクトとは、新たな環境関連プロジェクトに関する提案を公募し、採択したプロジェクトの実現に向けて、資金の一部助成や専門家による指導・助言を行う支援事業です。

ここでは、平成 22 年度 K-RIP プロジェクト採択案件を紹介します。

テーマ：「高周波電解による水処理装置の開発」

概要：冷却塔の冷却水処理に関して、現在主流である薬液処理装置に替わる高周波電解式による水処理装置を開発する。さらに高周波電解式水処理装置に関しては小型で低価格、高性能を目指す。

空研冷機株式会社

代表取締役社長 成清 重信

テーマ：「中国遼寧省における有機廃棄物リサイクル」事業化にむけて

概要：中国ではまだ技術の確立されていない家畜糞や生ごみなど、処理の方法によっては環境汚染や温暖化にもつながる有機廃棄物を堆肥化し、中国農業の安定生産に役立てたいと考えている。将来の日本の食糧供給のためにも大きな意味を持つと考えている。

株式会社福岡生物産業開発研究所

代表取締役社長 田中 鈴子

テーマ：「韓国における脱硫剤ビジネスの事業計画の作成」

概要：脱硫剤の製造・販売・交換作業・再生処理（リサイクル）の事業を実施しており九州の下水処理施設の約九割のシェアも持っている。この独自のリサイクル技術を韓国へ輸出することにより、更なる事業拡大を目指している。海外進出にあたり、K-RIP 会員企業との技術、販売面での協力を得たい。

株式会社日本リモナイト

代表取締役 栗谷 利夫

テーマ：「製糖工場をベースとしたバイオリファイナリーによる地域循環モデルの構築」

概要：サトウキビの製糖工程で副生するバガスや廃糖蜜を高効率に炭化水素類に転化する新規バイオリファイナリー技術を適用することにより、農業廃棄物から地域のエネルギーや高付加価値の化学原料を生産するとともに有用肥料成分であるカリウムの回収を行う地域環境モデルを構築する。

鹿児島大学

准教授 筒井 俊雄

テーマ：「九州のバイオマстаунにおけるビジネス構築支援調査」

概要：持続可能な循環型・低炭素化社会形成を後押しすることを理念とし、「バイオマス・ニッポン総合戦略」推進の一翼を担い、バイオマス利活用事業を推進するためにビジネスマインドを駆使して、九州のバイオマстаунにおけるビジネス構築に貢献したい。

非営利活動法人環境コア

理事長 中原 信子

環境ネットワークと学びの場「エコ塾」

—毎月第1水曜日開催—

九州経済産業局と連携して、環境分野の人的交流、企業間交流の活性化を目指とした「エコ塾」を毎月第1水曜日に原則として開催しております。誰でも自由に参加でき、2社の環境関連に取り組む企業のプレゼンテーションと、立食形式での交流会を行っております。

今回は第35回～37回のエコ塾を報告致します。

第35回エコ塾

(4月7日開催)

○「CSR（企業の社会的責任）を加味した環境対策のご提案」

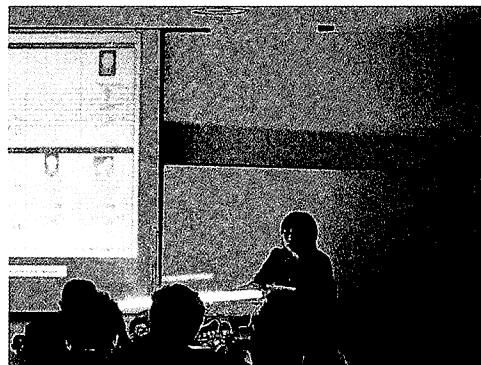
発表者：株式会社AZテック 原 奈美 氏、今井 寛秀 氏 販売協力：有限会社日ノ出

CSR（企業の社会的責任）に対する取り組みの一貫として株式会社AZテックで扱っているCCFL型電球の特徴（LED電球と同程度の性能ながら導入コストが半分程度であるなど）と活用についてご講演いただきました。当日は、実際の製品を展示していただきました。

○「基材、マッシュバンブー（竹のすりつぶし）の生ごみリサイクル」

発表者：NPO法人エコネットふくおか 事務局長 小出 まする 氏

森林荒廃の原因ともなる竹を粉末状にしたものマッシュバンブーと呼んでいます。このマッシュバンブーに、家庭などの生ゴミを加えて作る堆肥づくり活動についてご講演をいただきました。竹を畑に還元する循環型社会の取り組みが、地域に根付いている点は印象的でした。



株式会社AZテック



NPO法人エコネットふくおか

第36回エコ塾

(5月12日開催)

○「小さな循環ファーム」

発表者：NPO法人 循環生活研究所 事務局長 たいら 由以子 氏

生ゴミと基材に加えダンボールだけで優秀な堆肥を作ることが出来るエコ活動をダンボールコンポストといい、今年で活動10年目となる。このダンボールコンポストに関する取り組みについて、現在までの経緯と人材養成・支援システムの構築から、基材開発研究、環境負荷低減活動などNPO活動の苦労や現場での最新情報についてご講演いただきました。

○「J-VER制度を活用した森林づくりにおける低炭素社会づくりの取組みについて」

発表者：熊本県阿蘇郡小国町 小国町長 北里 耕亮 氏

環境省が推進している J-VER 制度を活用した「カーボンオフセット」事業の取組みや森林の「CO₂ 見える化」についてご講演頂きました。さらに、小国町の間伐材を利用した木製キューブを使って、町民参加型の低炭素社会に向けた取り組みについてもご紹介いただきました。



NPO 法人 循環生活研究所



熊本県阿蘇郡小国町

第37回エコ塾

(6月2日開催)

○「循環型社会創造のご提案 廃石膏ボードを活用した土壌改良材の開発について」

発表者：ジャスト経営研究所 代表 岩松 學 氏

建築物を解体した際に排出される大量の廃石膏ボードは、少量が再生原料となるだけで、大部分は廃棄されている現状がある。また、軟弱地盤に道路等を作る場合、山地を切り崩した土砂を埋立に使っていることから、廃石膏ボードを軟弱地盤の土壌改良材として開発し、実用化に至るまでのプロセスについてご講演いただきました。

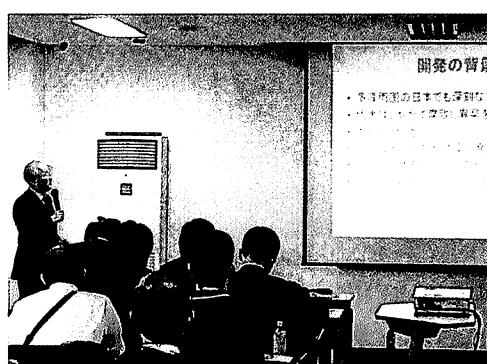
○「雨水を飲料水化するシステム」

発表者：前田興業株式会社 代表取締役 前田 行廣 氏

日本は、多降雨国でありながら雨水の再利用はなかなか進んでいない。度々起こる水不足改善のために雨水を生活用水や飲料水として利用する技術開発や、シンプル且つ省スペースな貯水装置開発の概要について講演いただきました。



ジャスト経営研究所



前田興業株式会社

K-RIP コーディネーターの紹介

統括コーディネーター
大崎 孝一



K-RIP は、九州経済産業局の支援を受け、環境・エネルギー産業のネットワークづくりとアジア展開支援をすすめてまいりましたが、6月18日発表された政府の新成長戦略の、7つの戦略分野の一つとして、「環境エネルギー」、「アジア経済」が取り上げられ、K-RIPに対する注目と評価が高まっています。

そこで、九州の環境関連ビジネスを促進し環境産業として確立するため、産学官のより広域的なネットワークの拡充につとめていきます。

さらに、環境クラスター連携によるセミナーの共催やメールマガジン配信、ホームページの改善のなど、効果的な情報提供システムを構築したいと考えております。

また、会員の皆様や関係機関の御協力を頂きながら、経営戦略や販路開拓の一元的支援や、ビジネスパートナーなど企業間マッチングのサポートに尽力し、加入メリットの充実を図って参ります。

微力ではありますが、皆様のお役にたてるよう、九州の環境産業振興に取り組んでまいります。
よろしくお願ひ致します。

アジア展開コーディネーター
伊藤 和博



本年度より K-RIP の国際展開支援、中国・韓国等アジアとのビジネス交流、ミッション団の派遣・受入れ等を中心としたコーディネートに携わって参ります。

これまで K-RIP では、2007年に韓国産業団地公団 ECO 事務局と、また、2009年に大連市と環境産業交流協定（MOU）を締結し、2010年1月には大連市と両国官民で「環境産業交流会議」を開催、九州企業の中国展開案件2件に調印するなど成果をあげています。

2010年度は交流地域を拡大し、7月3日には山東省青島市の第4回緑色産業国際博覧会会場において、K-RIP と山東省人民政府との間で環境・リサイクル分野の相互交流推進に関する覚書を締結したところです。

山東省は中国第3位のGDP規模を誇り、海外企業等との連携も積極的に推進されています。緑色産業国際博覧会においても内外270の企業・機関が出展し、生態建設、環境保全産業育成、エネルギー削減、低炭素経済等のニーズが顕在化しています。こうした同省の大規模な環境市場としてのポテンシャルを踏まえ、海外・日本の技術ニーズを有する中国企業の発掘を行っていきます。

2010年度に採択をいただきました日本貿易振興機構（ジェトロ）「地域間交流支援事業」では、九州の環境関連産業のアジア展開と山東省企業との連携・ビジネス化の推進に取り組んで参りたいと思います。

平成 22 年度 K-RIP 事業計画

日時	事業名	場所	連携団体
平成 22 年 4 月～ 平成 23 年 3 月	エコ塾（毎月第一水曜日開催）		九州経済産業局
平成 22 年 6 月 16 日	役員会、総会	福岡市	
平成 22 年 5 月 ～23 年 3 月	K-RIP プロジェクト		
平成 22 年 6 月 ～23 年 1 月	専門家派遣事業		K-RIP フェロー 日本技術士会等
平成 22 年 8 月 ～23 年 3 月	提案公募型販路開拓支援事業		
平成 22 年 9 月 7 日 ～9 月 10 日	九州環境クラスター大学 (環境産業人材育成コース)	宮若市	
平成 22 年 9 月	九州環境ビジネス大賞選考、審査 (エコテクノ 2010 にて表彰式)		
平成 22 年 9 月	九韓環境ビジネス連携推進事業 国際環境エネルギー産業展 ENTECK2010	釜山	福岡市 (財)日韓産業技術協力財団
平成 22 年 10 月	環境展示会出展事業 (エコテクノ 2010 に出演)	北九州市	西日本産業貿易コンベンション 協会
平成 22 年 10 月	中国・韓国とのビジネスマッチング事業 (エコテクノ 2010 及び環黄海会議にてセミナー及び商談会)	北九州市	
平成 22 年 12 月	環境展示会出展事業 (エコプロダクツ 2010 に出演)	東京都	
平成 22 年 12 月	環境ビジネス交流会		九州経済連合会
平成 23 年 1 月	アジア環境ビジネスミッション 派遣事業		アジア低炭素化センター
平成 23 年 2 月	環境技術交流会		九州経済連合会
平成 23 年 2 月	中国山東省との環境産業交流事業(RIT 事業) (山東省環境ビジネスミッション派遣)		JETRO 福岡 アジア低炭素化センター

[Kyushu Recycle and Environmental Industry Plaza] (K-RIP)

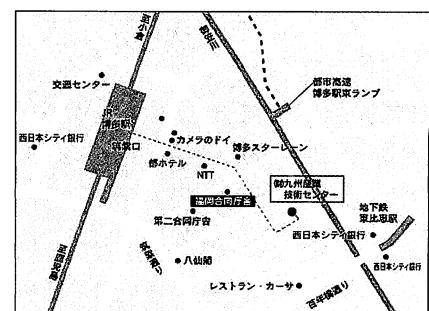
九州地域環境・リサイクル産業交流プラザ (K-RIP) 事務局

〒812-0013

福岡市博多区博多駅東 2 丁目 13-24
(財)九州産業技術センター内

TEL 092-474-0042

FAX 092-472-6609

URL <http://www.k-rip.gr.jp/>
e-mail info@k-rip.gr.jp

平成 22 年 8 月 発行